戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

資料2

次期SIP課題候補「スマート防災ネットワークの構築」

令和4年8月25日

内閣府 プログラムディレクター候補（検討タスクフォース座長）
楠　浩一

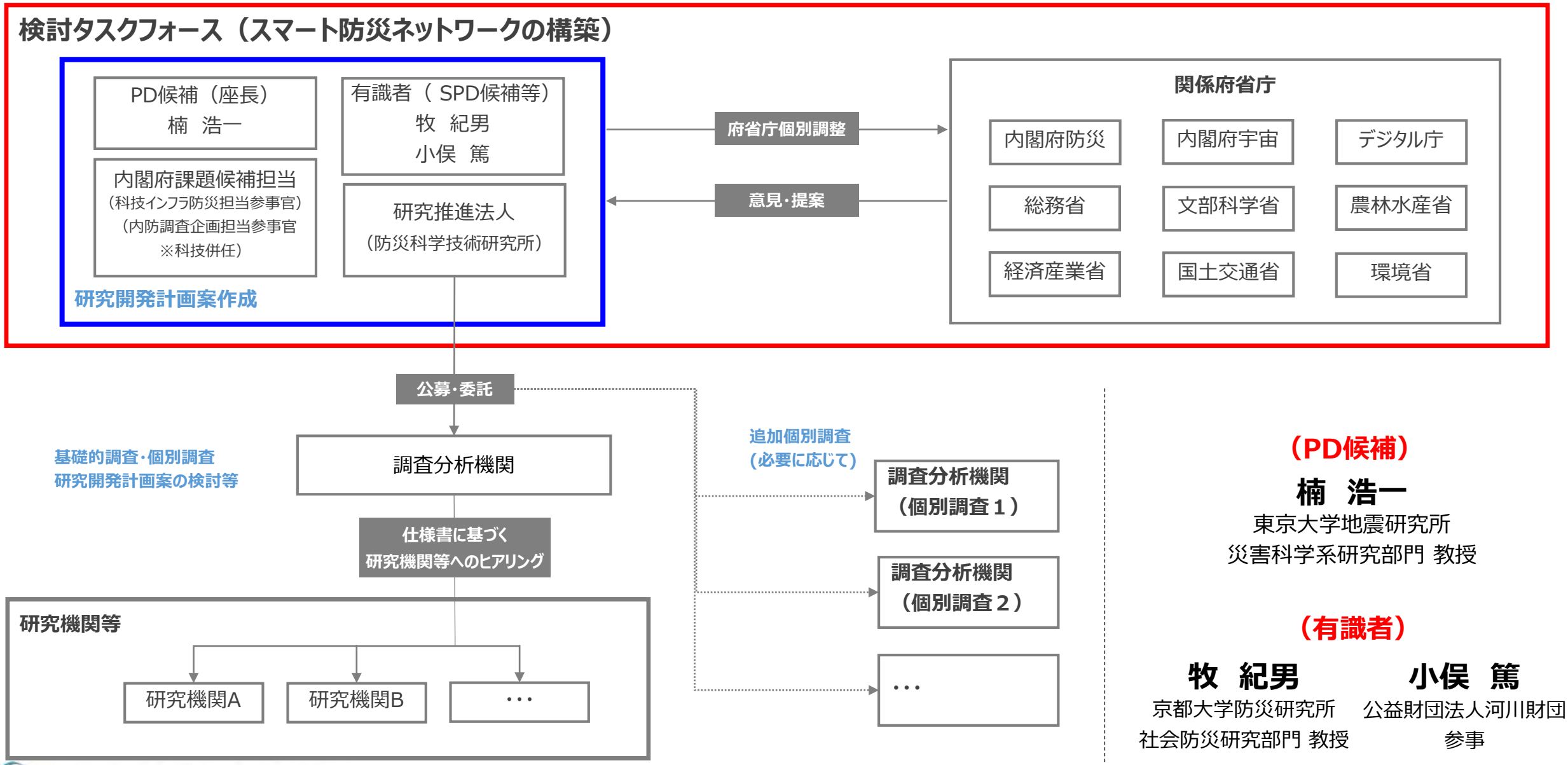
○ スマート防災ネットワークの構築

気候変動等に伴い災害が頻発・激甚化する中で、災害前後に、地域の特性等を踏まえ災害・被災情報（災害の種類・規模、被災した個人・構造物・インフラ等）をきめ細かく予測・収集・共有し、個人に応じた防災・避難支援、自治体による迅速な救助・物資提供、民間企業と連携した応急対応などを行うネットワークを構築する。

目指す社会像	解決すべき社会課題
レジリエントで安全安心な社会	■経済の大前提となる国民の安全・安心の確保/強靭な社会づくり（科技・イノベ基本計画） ■深刻化する自然災害/自然災害等のリスク（科技・イノベ基本計画） ■近い将来、大規模な地震・津波災害の発生が高い確率で想定される/逃げ遅れによる死者・行方不明者の発生、家屋やインフラの被災による国民生活や経済社会に対する被害の防止が困難な状況（科技・イノベ基本計画）

2021.12.23 ガバニングボード資料抜粋

■ 実施体制



（PD候補）

楠　浩一

東京大学地震研究所
災害科学系研究部門 教授

（有識者）

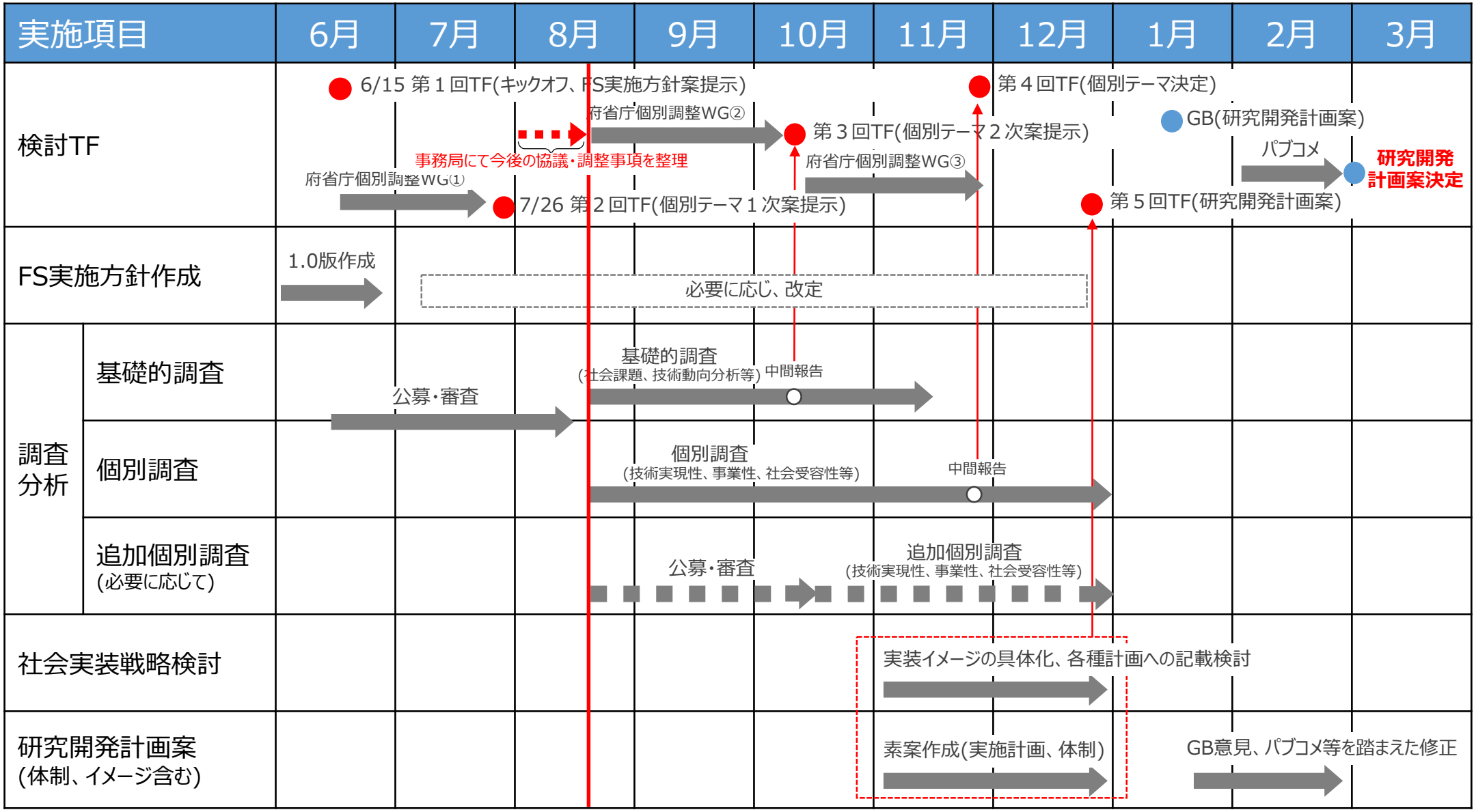
牧　紀男

京都大学防災研究所
社会防災研究部門 教授

小俣　篤

公益財団法人河川財団
参事

■ スケジュール



※9月以降は予定を記載している。

■ 個別研究テーマの決定プロセス

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）は、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮し、府省や旧来の分野の枠を超え、基礎研究から実用化・事業化まで見据えて一気通貫で研究開発を推進し、イノベーションの実現を目指すものである。

個別研究テーマの決定にあたっては、府省庁個別調整WGを開催し、「個別テーマ選定の評価軸」に基づき、RFI及び府省庁提案、FSの調査状況等から重点的に取り組んでいくべきテーマの絞り込みを行う。

第２期 SIP が満たすべき要件

① Society 5.0 の実現を目指すもの。
② 生産性革命が必要な分野に重点を置いていること。
③ 単なる研究開発だけではなく社会変革をもたらすものであること。
④ 社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な分野。
⑤ 事業化、実用化、社会実装に向けた出口戦略が明確。
（5 年度の事業化等の内容が明確）
⑥ 知財戦略、国際標準化、規制改革等の制度面の出口戦略を有していること。
⑦ 府省連携が不可欠な分野横断的な取り組みであること。
⑧ 基礎研究から事業化・実用化までを見据えた一気通貫の研究開発。
⑨ 「協調領域」を設定し「競争領域」と峻別して推進（オープン・クローズ戦略を有していること。
⑩ 産学官連携体制の構築、研究開発の成果を参加企業が実用化・事業化につなげる仕組みやマッチングファンドの要素をビルドイン。

SIP運用指針より抜粋

個別テーマ選定の評価軸

①スマート防災ネットワークのコンセプトに合致する事。

②研究開発によるイノベーションを起こす。

③社会実装戦略・道筋が明確である。
例)府省庁の計画、政策
（閣議決定等に記載がある。）

④府省庁連携による分野横断的な取組である。

■ 研究開発計画策定に向けて

（令和４年）

６月～　定例打合せ　PD候補、有識者、内閣府課題担当、研究推進法人による打合せを定期的に実施。

６月１５日　**第１回　検討タスクフォース（検討TF）**　FS実施方針、個別テーマ選定の評価軸の共有、議論。

～７月下旬　**第１回　府省庁個別調整WG**　各関係府省庁から研究開発テーマ案の提示、議論。
(各関係府省庁から研究開発テーマ案の提示を受け、個別テーマ選定の評価軸に基づき議論。８府省庁と実施。)

７月２６日　**第２回　検討TF**　RFI、府省庁個別調整WG等を踏まえた個別研究テーマ１次案の提示、議論。

※８月下旬現在、事務局にて第２回WGに向けた協議・調整事項等の検討、整理を実施中。

８月下旬～　**第２回　府省庁個別調整WG**　第１回WGを踏まえ、技術開発要素の明確化、新規性・発展性の整理等を実施。
並行して関係府省庁所管の研究開発法人等にも別途ヒアリング予定。

８月下旬頃　調査分析機関決定、FS調査開始

１０月中旬　**第３回　検討TF**　FS調査、府省庁個別調整WG等を踏まえた個別研究テーマ２次案の提示、議論。

１０月中旬頃～　第３回　府省庁個別調整WG

１１月下旬　第４回　検討TF　個別研究テーマの決定。

１２月下旬　第５回　検討TF　研究開発計画（案）

（令和５年）

１月　研究開発計画の審議（ガバニングボード）

※9月以降は予定を記載している。